



第25回 摂食機能向上研修会

摂食機能向上委員会 大塚 義顕

「美味しく、楽しく、食べられるように・・・」国立病院機構の重症心身障害児病棟勤務の看護師を対象とした摂食機能向上研修会が、7月12日、13日の2日間に渡り、開催されました。2年前までは、関信越ブロックの病院の重症心身障害児病棟に勤務する看護師を対象としたものでしたが、全国から研修会に対する問い合わせが殺到し、翌年より全国規模で開催するようになりました。今年の研修会は、北は八雲病院、南は南九州病院の45施設から総勢80名が集まり、大会議室を埋め尽くしました。講師陣は、昭和大学教授の向井美恵先生と准教授の弘中祥司先生以下4名のスタッフと共に、当院の歯科の大塚、渋谷です。

研修講義が進むにつれ、熟練した講師の話に、研修生は皆、自然に緊張が緩んできたようです。実習では、6班に別れて、楽しく実施されました。初日の研修終了後の懇親

会では、当院の重心病棟の看護師も参加して、交流を深めることができました。二日目には、栄養管理室長の田所さんに、「重心の形態食について」の説明をしてもらい好評を得ました。また、病棟見学研修では、摂食訓練や食事介助の様子を見学し、熱心に質問をしていました。当院看護師による「摂食機能向上の取り組み」の事例発表会では、21病棟、22病棟、23病棟の看護師が症例を発表しました。実際に訓練によって回復してきた様子を診ていただくことで、何かできる自信を持たれたものと思います。最後の看護診断・看護計画をたてるために課題をあたえられ、二日間で学び、診てきた知識を精一杯使い、上手くまとめて発表されていました。修了証の授与式の時の皆の笑みから、きっと満足の得られる研修ができたスタッフ一同感じています。

目次

▶第25回 摂食機能向上研修会	1
▶診療科の紹介	2
▶千城ウインドシンフォニカ	3
▶食のお話	3
▶外来診療担当医表	4

循環器科の紹介

高血圧症、冠動脈疾患(心筋梗塞や狭心症)、不整脈、心不全(心筋症、心臓弁膜症)、閉塞性動脈硬化症、大動脈瘤など幅広く、診療しております。最近では、メタボリックシンドローム(内臓脂肪が原因で糖、脂肪、血圧に異常を来している状態)や慢性腎臓病(慢性的な尿の異常や腎機能の低下を伴う状態)の患者さんではいずれも、そうでない方に比べ2から3倍以上、心臓や血管の病気が多いことが報告されています。当院ではこのような患者さんが増えることで、狭心症や心筋梗塞といった冠動脈疾患の患者さんの数も増加しています。

また心臓病や動脈硬化の原因の多くはいわゆる生活習慣病で、この改善なくては悪化してしまうことが多いです。当院では、内科とも協力しまして食事療法、運動療法等も重視して行っております。

胸痛、動悸、息切れ、浮腫、めまい、意識消失などの自覚症状や血圧、心電図などの異常は当科に受診ください。



中里 毅
循環器科医長



宮原 啓史
循環器科医師

●狭心症と心筋梗塞

酸素や栄養を運ぶ心臓周囲の血管が冠動脈で、太いものは3本あります。狭心症とはこの冠動脈が動脈硬化などで狭くなるのが原因です。典型的な症状は坂を登ったり、重いものを持ったときなどに胸が圧迫されるというものです。

冠動脈が閉塞し、心筋が死んでしまうと心筋梗塞です。

運動負荷心電図や心筋シンチグラム、冠動脈造影検査などで診断します。冠動脈造影検査は、カテーテル(管)を使って冠動脈の中に造影剤という、X線

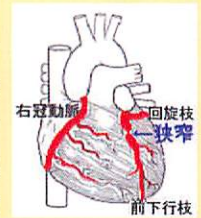
でよく見える薬剤を注射することによって冠動脈を調べる検査です。治療は薬物、カテーテル治療(経皮的冠動脈形成術PTCAと呼ばれる)やバイパス手術などありますが、最近ではカテーテル治療を行うことが多くなってきています。



<ステントによるPTCA>

①狭窄のある部分に②風船の周りにステント(コイル状のもの)を巻いたものを通す③風船を拡張し④ステントだけ残す

以前のカテーテル治療だと2~3割は半年間で再び狭窄を起こすと言われていましたが、最近では数%以下です。



<冠動脈造影の例>
矢印は狭窄を示します。

形成外科の紹介

当形成外科は、2年前に開設された歴史の浅い科です。整形外科と名前が似ていますが、整形外科は、筋肉や骨、脊椎や腰椎などの機能的改善を目的とし、形成外科は、形態的改善を目的としています。先天性外表異常・外傷・腫瘍を柱に、腋臭症などの診療を行っています。今回、身内で、良く取り扱う疾患を3つ紹介致します。



千明 信一
形成外科医長



大森 直子
形成外科医師

●**陥入爪・巻爪**…爪が変形し、肉に食い込む疾患です。歩く時に痛みを生じ、重症例では、刺激を与えなくても痛みが生じます。軽症であれば自己ケアで治療できますが、重症例では手術が必要となる場合があります。

●**難治性潰瘍**……糖尿病や末梢血管病変が背景にある場合、また、深い火傷の後など、なかなか潰瘍が治りません。軽症例では創傷被覆剤や軟膏で、重症例では皮膚移植など手術的に治療を行います。

●**皮膚癌**……「大きな(6mm以上)」「拡大傾向の」「黒色の」腫瘍は、皮膚癌や前癌病変が疑われます。病変の悪性度は、切除しての病理診断によってのみ、確定することができます。

早期であれば、少ない侵襲で治療することができる疾患も少なくありません。ご相談下さい。



千城ウインドシンフォニカ

1 病棟 看護師 大和地 妙子

私たちは今年で16年目を迎える、千葉市若葉区を中心に活動している市民吹奏楽団です。発足当時は県立千城台高校吹奏楽部のOB・OGが母体となっていましたが、現在は卒業生の割合は随分と少なくなってきています。毎年夏に行う子供も大人も楽しめるコンサートをコンセプトに企画している「スイカコンサート」と、冬に行うクラシックメインの定期演奏会が主な演奏活動で、その他地域活動を行っています。

昨年6月と今年4月に当院での演奏の機会を頂き、闘

病生活をおくられている患者さまとご家族の方との楽しい時を過ごさせて頂く事ができました。私たちの演奏を聴いて笑顔で手を叩いて喜んで下さったり、懐かしい曲と一緒に口ずさんで下さったり、涙して下さったり…終演後、何度も「また来て下さい」と言われたあの日の経験は、何か忘れかけていたものを思い起こさせてくれたような気がします。聴きに来て下さった方々の癒しになれるのならば、今後も是非このような機会に恵まれないものです。

食のお話

～その2～

枝豆

栄養管理室

「夏と言えば、ビールと枝豆」という方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。今回は、夏が旬の枝豆についてお話ししましょう。

枝豆に含まれるアミノ酸の一つである「メチオニン」は、肝臓内に入ってきた毒素や老廃物を排除し、代謝を促進させます。また、油と水の両方になじむことができる「レシチン」を豊富に含みますが、レシチンは細胞内に必要な栄養素を吸収し、不必要な物質を排泄するととても大切な役割を持っています。その他、暑さで消耗するビタミンC、エネルギー代謝を促進し疲労の回復に役立つビタミンB1・B2、癌の予防に効果があるカロテン、便秘を予防・改善する食物繊維などが含まれています。

枝豆に含まれる栄養素の働きはたくさんあり、夏バテ防止にも一役買うと言えるでしょう。ただし過剰摂取は健康的ではありません。他の食品とのバランスを考慮すると、1日に取る量としては片手に乗る程度（さや付きで約70g）までがよいでしょう。

暑い夏を健康で過せるよう、食生活を大切にしてください。



外 来 診 療 担 当 医 表

平成 19 年 8 月 1 日現在

		月	火	水	木	金
内 科	腎	西 村 小 林	首 村 祖 山	今 澤 関	西 村	
	糖尿病・内分泌			西村(午後予約のみ・ 糖尿病生活習慣病 外来)		
	消化器科	※	※	小 島	※	小 島
	循環器科	中里(新患)	中 里	宮 原	中 里	
	アレルギー科 (リウマチ・膠原病)	松 村	※	若 新	松 村	松 村
神 経 内 科		新 井 石 川		特殊外来(治験) 午前中のみ	新 井 吉 山	新 井 伊 藤
呼吸器科	呼吸器	橋 本 團 川 崎 玉置(新患)	別宮(新患)	佐々木(新患)	佐々木 玉 置 別 宮 橋本(新患)	山 岸 佐々木(新患)
	呼吸器(第3)	佐々木(新患)	佐々木 玉 置 川 崎 橋本(新患)	山 岸 團 別宮(新患)	川崎(新患)	佐々木(新患)
小 児 科		倉 山 松 村 安 齋 金 本			倉 山 松 村 安 齋 金 本	
外 科	肝・胆・膵	剣 持 西 郷	丸 山 圀	(手術日)	丸 山 岩 下	剣 持 大 月
	消化管 移植			(新患応需)		
整 形 外 科 リハビリテーション科		勝 見 田 原	(手術日)	(新患応需)	(午前側弯症外来) 赤 澤・大 塚 (午後一般外来) 勝見・田原・赤澤	勝 見 赤 澤
呼吸器外科		(新患応需)	山 川 藤 野	山 川 藤 野	(新患応需)	山 川 松 井
泌尿器科		香 村	(新患応需)	(手術日)	香 村	(新患応需)
眼 科		今 井	(手術日)	今 井	今 井	今 井
形成外科		千 明	大 森	千 明	(新患応需)	大 森
歯 科		大 塚(義) 渋谷	大 塚(義) 渋谷	大 塚(義) 渋谷	(摂食機能外来) (新患)	大 塚(義) 渋谷

診療受付時間(初診・予約外)・・・月曜日～金曜日 午前 8:30～午前 11:00

※緊急の場合、内科にて受診応需。

<地域医療連携室からのお知らせ>

当院の地域医療連携室では、医療機関様からのお問い合わせに対して、連携窓口として連絡調整等を行っております。お問い合わせ、ご不明な点やご意見ご要望等がございましたらご遠慮なくお知らせ下さい。

千葉東病院 地域医療連携室

TEL・FAX 043-264-3531(直通)

〒260-8712

千葉県千葉市中央区仁戸名町673

電話:043-261-5171

FAX:043-268-2613

国立病院機構千葉東病院

編集担当 管理課 岡田・伊藤